



アザミウマ類が難防除になる要因とそれを克服する防除法

地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 しば 柴 お 尾 まなぶ 学

はじめに

日本で農作物を加害するアザミウマ類は3科44種が知られている（日本応用動物昆虫学会，2006）。これらのアザミウマ類は、吸汁による直接的な農作物の被害に加えて、ウイルス病の媒介による被害が大きい。特に、国内で大きな被害を及ぼす種は、ミナミキイロアザミウマ *Thrips palmi* Karny, ネギアザミウマ *Thrips tabaci* Lindeman, ミカンキイロアザミウマ *Frankliniella occidentalis* (Pergande), ヒラズハナアザミウマ *Frankliniella intonsa* (Trybom), チャノキイロアザミウマ *Scirtothrips dorsalis* Hood の5種である。また、国内で発生が確認されているウイルスのうち、トマト黄化えそウイルス (TSWV) はミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ネギアザミウマ、スイカ灰白色斑紋ウイルス (WSMoV) およびメロン黄化えそウイルス (MYSV) はミナミキイロアザミウマ、インパチエンスえそ斑紋ウイルス (INSV) はミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、アイリス輪紋ウイルス (IYSV) はネギアザミウマによって媒介される（櫻井，2006）。

アザミウマ類は世界的な難防除害虫である。本稿ではアザミウマ類が難防除となる要因を紹介するとともに、それを克服するための防除法を大阪府における研究トピックス（柴尾，2024）からいくつか紹介する。なお、野菜・果樹・花きに発生するアザミウマ類主要5種の見分け方や被害の特徴などについては柴尾（2011；2019；2021）に詳しく紹介しているので参照してもらいたい。

I 難防除となる要因

アザミウマ類が難防除となる要因には、形態的な要因、生態的な要因、薬剤感受性による要因などに分けられる。特に、アザミウマ類は種によって農作物上での発生生態や被害程度が異なるとともに、後述するように種によって各種薬剤に対する感受性が異なるといった課題

がある。

1 形態的な要因

アザミウマ類は微小な害虫である。体長は、ミナミキイロアザミウマの雌成虫（図-1）が約1.3 mm，雄成虫が約1.0 mm，ミカンキイロアザミウマの雌成虫が約1.6 mm，雄成虫が約1.2 mm，チャノキイロアザミウマの雌成虫（図-2）が約0.9 mm，雄成虫が約0.7 mmである（岡島・榎本，2022）。微小であることから、農作物上での早期発見が困難になり早期防除の実施が遅れるこ



図-1 ミナミキイロアザミウマ雌成虫



図-2 チャノキイロアザミウマ雌成虫

Factors that Make Thrips Difficult to Control and Control Methods for Thrips. By Manabu SHIBAO

（キーワード：アザミウマ，難防除，防除法，IPM）